

温泉析書

衛研依第4-166号温 1274号

1 申請者住所氏名 札幌市南区定山溪温泉東3丁目318番地 酒井 雄 雄

2 源泉名および湧出地 定山溪温泉(源泉名ととき和旅館札幌市南区定山溪温泉東4丁目319番地先河川敷地内)

3 湧出地における調査および試験成績

(イ) 調査および試験者：北海道立衛生研究所技術吏員 北山正治

(ロ) 調査および試験年月日：平成元年9月8日

(ハ) 泉温：80.5℃(気温：24℃) (ニ) 湧出量：240ℓ/min(自然湧出)

(ヘ) 知覚的試験：無色澄明、微弱カン味、微弱硫化水素臭

(ニ) pH値：6.6 (ト) ラドン(Rn)：

4 試験室における試験成績

(イ) 試験者：北海道立衛生研究所技術吏員 北山正治

(ロ) 分析終了の年月日：平成元年9月29日

(ハ) 知覚的試験：無色澄明、微弱カン味、ほとんど無臭(採水後3時間)

(ニ) 密度：1.0007 (20/4℃)

(ト) pH値：6.64

(ハ) 蒸発残留物 3.327 g/kg (130℃)

5 試料1kg中の成分：分量および組成

水素イオン	ミリグラム (mg)		ミリバール (mval)		ミリバール% (mval%)		陰イオン		ミリグラム (mg)		ミリバール (mval)		ミリバール% (mval%)	
	陽イオン	陰イオン	陽イオン	陰イオン	陽イオン	陰イオン	陽イオン	陰イオン	陽イオン	陰イオン	陽イオン	陰イオン	陽イオン	陰イオン
H ⁺														
ナトリウムイオン	947.3		41.20		78.42		F ⁻	1.2		0.06		0.11		
カリウムイオン	171.2		4.38		8.33		Cl ⁻	1615.		45.55		86.68		
アンモニウムイオン	1.3		0.07		0.13		OH ⁻					0.00		
マグネシウムイオン	8.2		0.67		1.28		硫化水素イオン	HS ⁻	0.0	0.00		0.00		
カルシウムイオン	123.6		6.17		11.74		チオ硫酸イオン	S ₂ O ₃ ²⁻						
アルミニウムイオン							リン酸イオン	H ₂ PO ₄ ⁻	0.1	0.00		0.00		
マンガンイオン	0.7		0.03		0.06		硫酸イオン	SO ₄ ²⁻	90.5	1.88		3.58		
第一鉄イオン	0.5		0.02		0.04		炭酸水素イオン	HCO ₃ ⁻	308.5	5.06		9.63		
第二鉄イオン							炭酸イオン	CO ₃ ²⁻	0.0	0.00		0.00		
計	1253.		52.54		100.		計		2015.	52.55		100.		

(イ) 遊離成分

非遊離成分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)	非遊離成分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
メタケル酸 H ₂ SiO ₃	152.5	1.95	メタ亜硫酸 HASO ₂	5.4	0.05
メタケル酸 HBO ₂	148.4	3.39			
計			計	306.3	5.39

溶存物質(ガス性のものを除く)

溶存ガス成分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
遊離二酸化炭素 CO ₂	87.1	1.98
遊離硫化水素 H ₂ S	0.6	0.02
計	87.7	2.00

成分総計

飼イオン：0.024mg/kg	
鉛イオン：検出せず	
総水銀：検出せず	
成分総計 3.662 g/kg	

(ニ) その他微量成分

6 泉質：ナトリウム-塩化物泉(中性低張性高温泉)

7 禁忌症、適応症：「温泉分析書別表」中5に記載する。

平成元年9月30日

上記原本により謄写す

平成9年7月7日

北海道立衛生研究所長 木村浩男

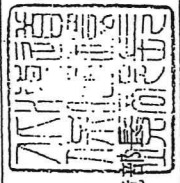
北海道札幌市北区北19条西12丁目

北海道立衛生研究所長

温泉分析書別表

1	源 泉 名 : 定 山 溪 温 泉 (と き 和 旅 館)
2	源 泉 所 在 地 : 礼 幌 市 南 区 定 山 溪 温 泉 東 4 丁 目 319 番 地 先 河 川 敷 地 内
3	温 泉 分 析 申 請 者 : 礼 幌 市 南 区 定 山 溪 温 泉 東 3 丁 目 318 番 地 酒 井 惟 雄
4	泉 質 : ナトリウム-塩化物泉 (中性低張性高温泉) (旧泉質名 : 弱食塩泉)
5	療養泉分類の泉質に基づく禁忌症、適応症等は次のとおりである。
浴	急性疾患 (特に熱のある場合)、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患 活動性の結核、高度の貧血、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中 (特に初期と末期)。
用	神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くしき、痔疾 慢性消化器病、慢性皮膚病、病後回復期、疲労回復、健康増進、虚弱児童、慢性婦人病 冷え症、きりきず、やけど。
飲	腎臓病、高血圧症、その他一般にむくみのあるもの。
用	慢性消化器病、慢性便秘。
浴 用、禁 用 の 一 般 的 注 意 事 項	<p>1 入浴の方法及び注意</p> <p>(1) 熱い温泉に急に入ると、めまい等を起こすことがあるので十分注意をすること。</p> <p>(2) 入浴時間は入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分位とし、なれるにしたがって延長してもよい。</p> <p>(3) 入浴中は運動浴の場合とは別として、一般には安静を守ること。</p> <p>(4) 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守ること。</p> <p>(5) 高度の動脈硬化症、高血圧症及び心臓病の患者は原則として、高温浴 (42℃以上) を禁忌とする。</p> <p>(6) 入浴後は身体に付着した温泉成分を水で洗い流さないのがよい。ただし、「湯ただれ」を起こし弱い人は逆に浴後其水で身体を洗うか、温泉成分をふき取るのがよい。</p> <p>(7) 食事の前、直後の入浴は避けることが望ましい。</p> <p>(8) 飲酒しての入浴は特に注意すること。</p> <p>(9) その他</p> <p style="text-align: center;">※ 飲用の方法を注意</p> <p>(1) 飲用の分量は一般に100mlないし200ml程度とし、その1日量はおおむね200mlないし1,000mlまでとする。</p> <p>(2) 一般には食前30分ないし1時間がよい。</p> <p>(3) 夕食後から就寝前の飲用はなるべく避けること。</p> <p>(4) その他</p> <p style="text-align: center;">大人一人一日の飲用量は 80 ml以内 (ヒ 禁 含 有) と し、 食 後 に 飲 用 す る こ と。</p> <p>◎ 温泉療養に際しては、医師の指導を受けることが望ましい</p>

平成 元 年 9 月 30 日



決定者 北海道保健環境部